

問 12 以下のような在宅医療・介護のサービスをご存知ですか。アからクの各項目について、それぞれ該当する数字を1つずつ選んで○で囲んでください。

在宅医療・介護サービスの認知度については、次のとおりとなっている。

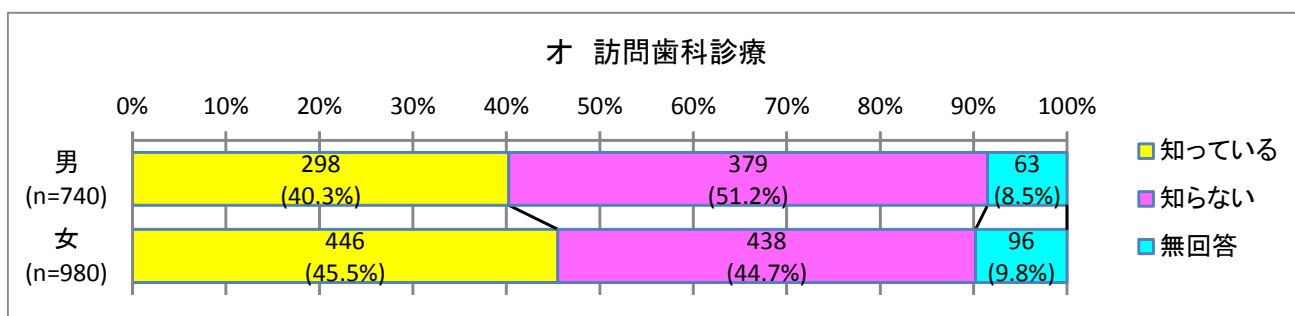
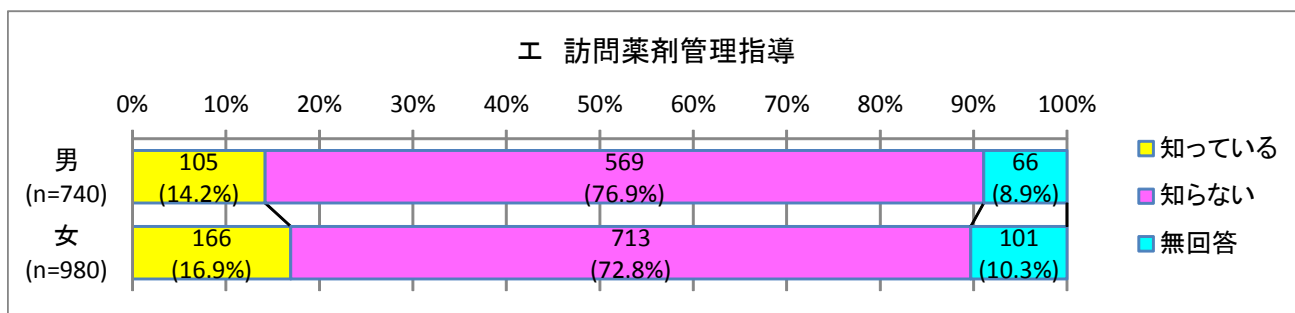
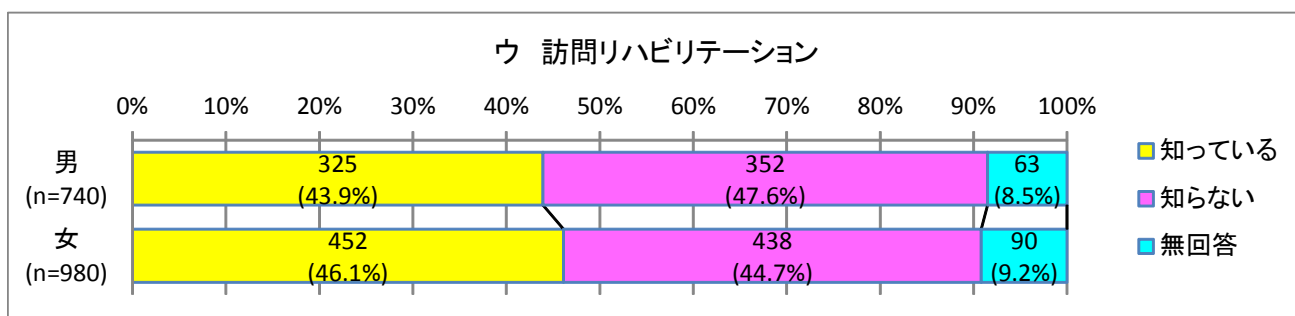
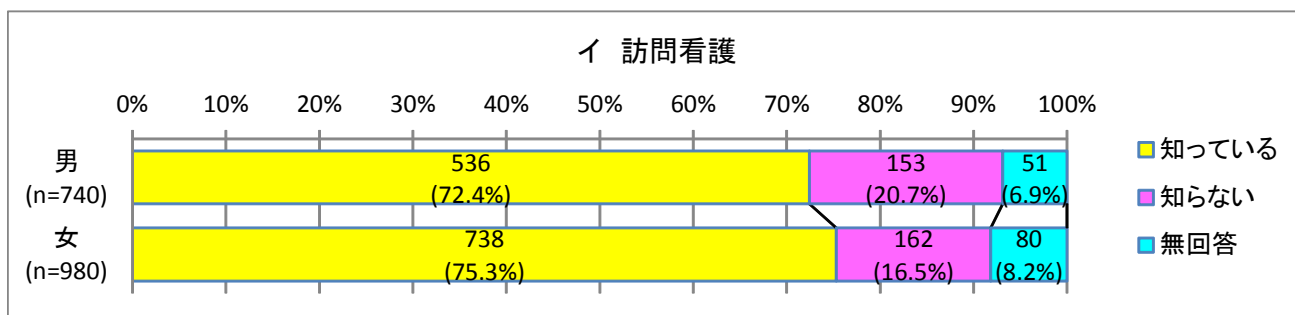
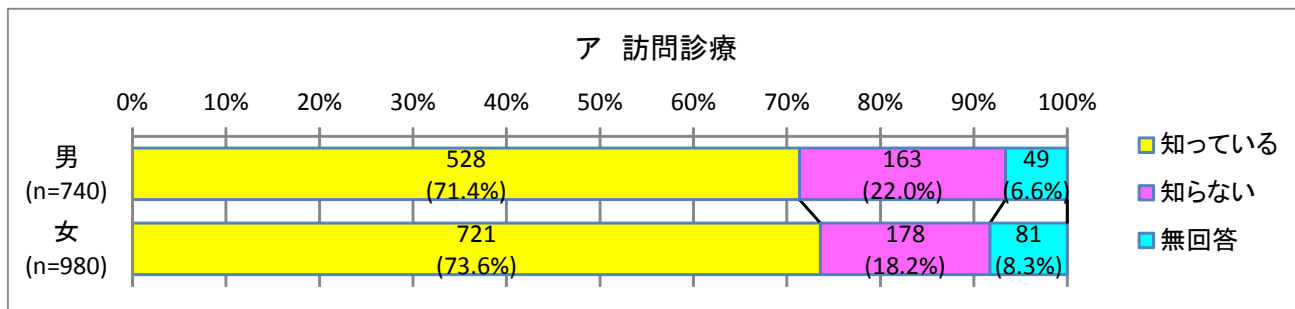
認知度が高かったサービスは、『訪問介護』を「知っている」と回答した人が 85.0%と最も多く、次いで『訪問看護』が 73.9%、『訪問診療』が 72.4%となっている。

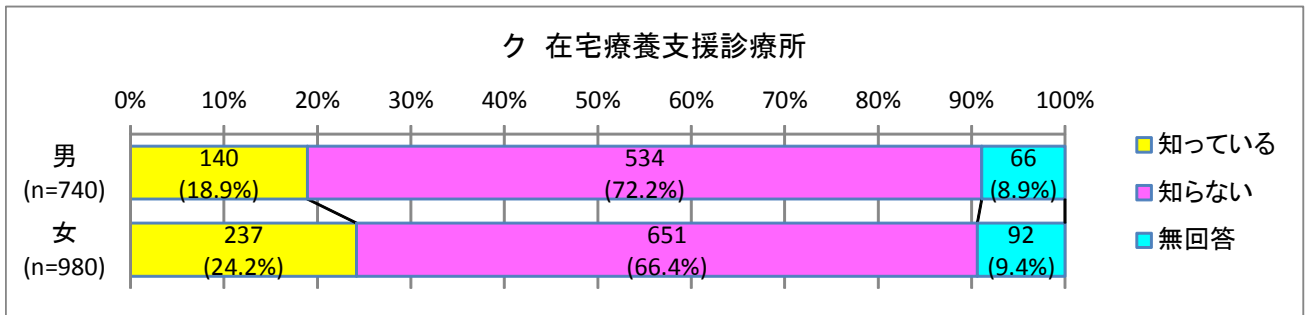
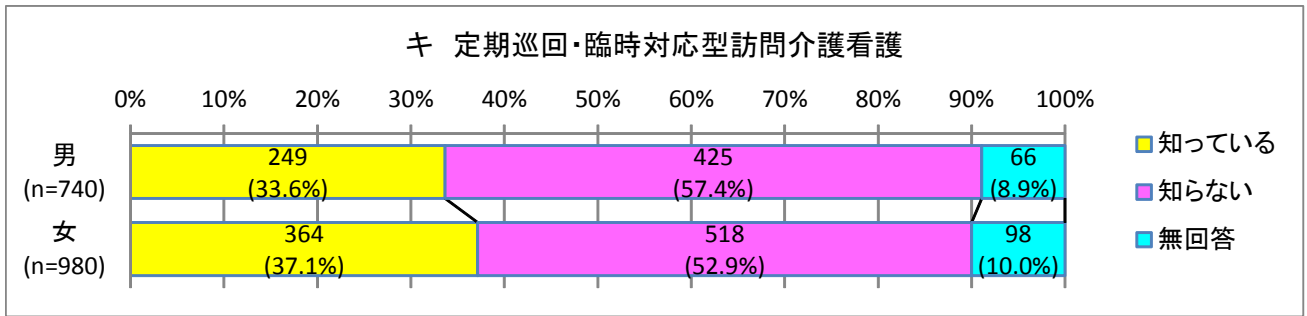
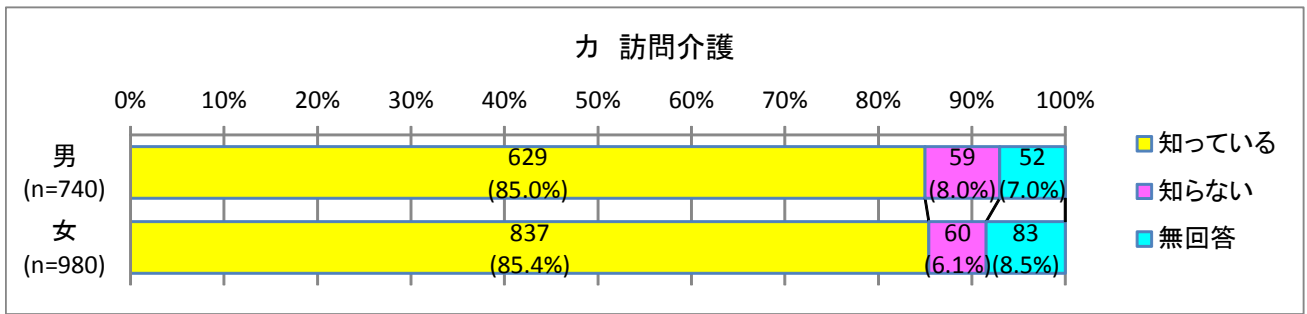
また、認知度が低かったサービスは、低い順に『訪問薬剤管理指導』、『在宅療養支援診療所』、『定期巡回・臨時対応型訪問介護看護』がそれぞれ 40%未満となっている。

※「知っている」及び「知らない」の両方に○があったものは、「無回答」として集計



各種サービスの認知度を男女別に見ると次のとおりであり、「知っている」と答えた人の割合は、すべてのサービスにおいて、男性よりも女性の方が高くなっている。

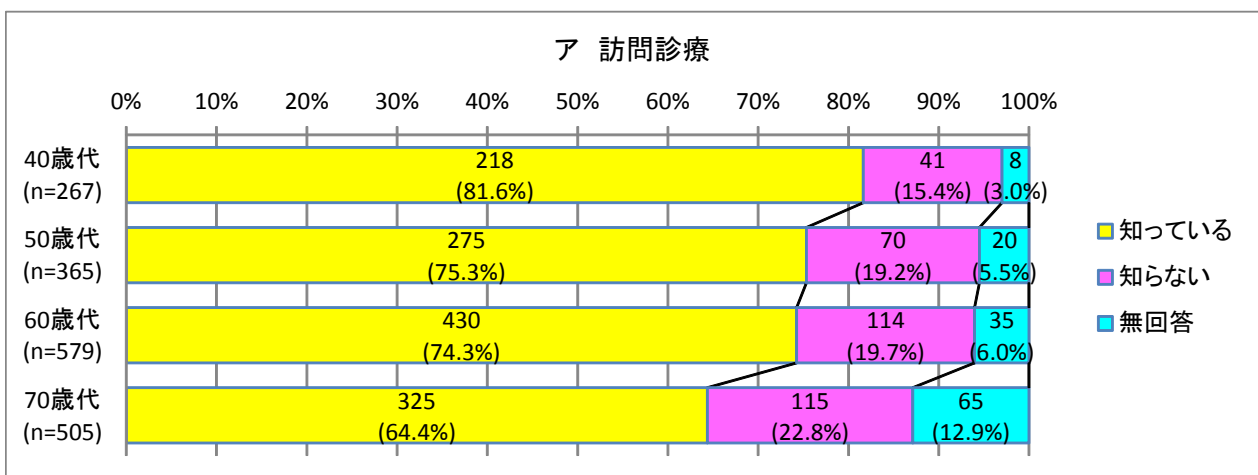




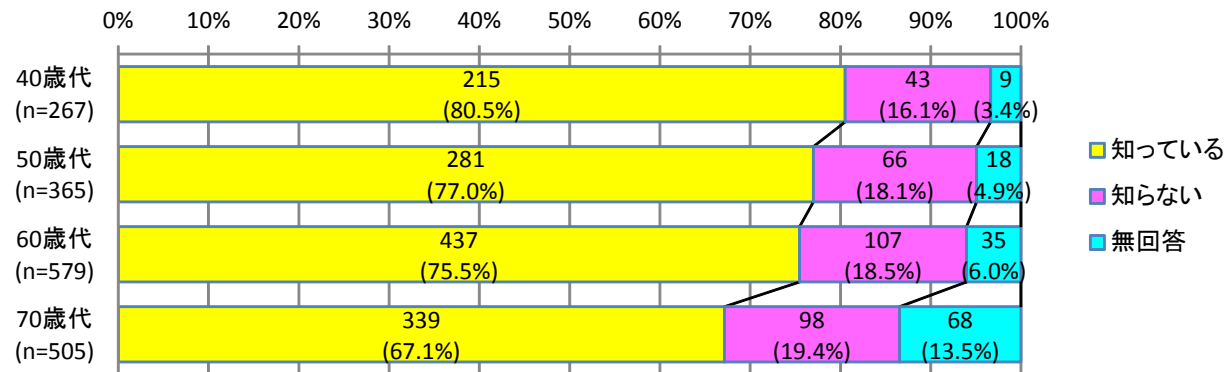
各種サービスの認知度を年代別に見ると次のとおりとなっている。

「知っている」と答えた人の割合は、一部を除いて、年代が高くなるとともに低くなっている。特に、70歳代については、8項目のうち6項目で最も低くなっている。

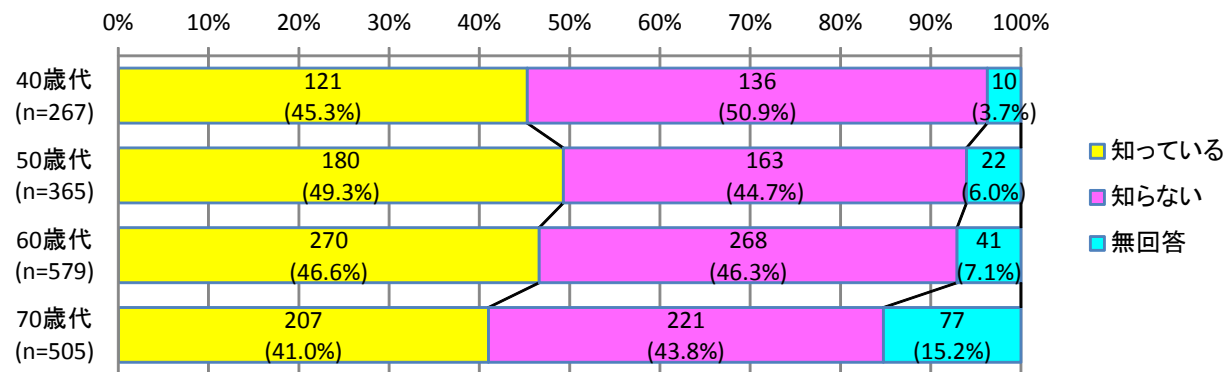
また、『訪問薬剤管理指導』は、60歳代が最も低く、次いで50歳代、『在宅療養支援診療所』は60歳代が最も低く、次いで70歳代となっている。



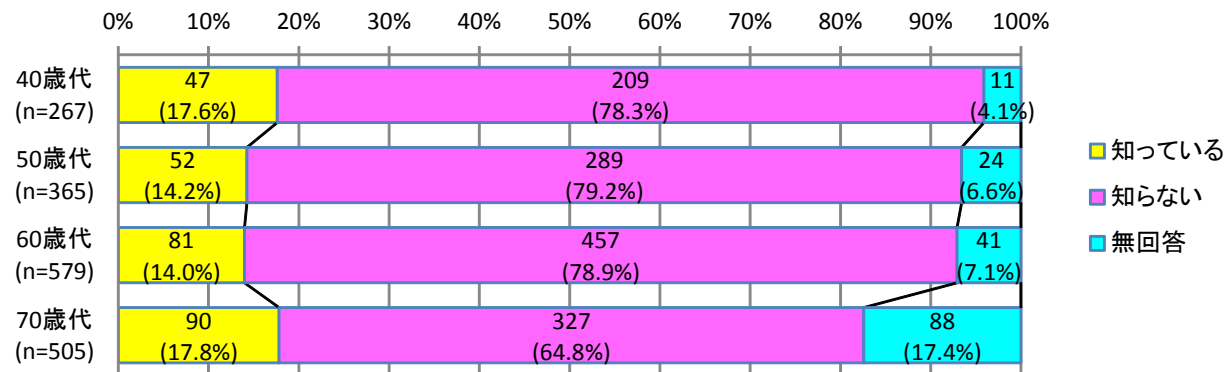
イ 訪問介護



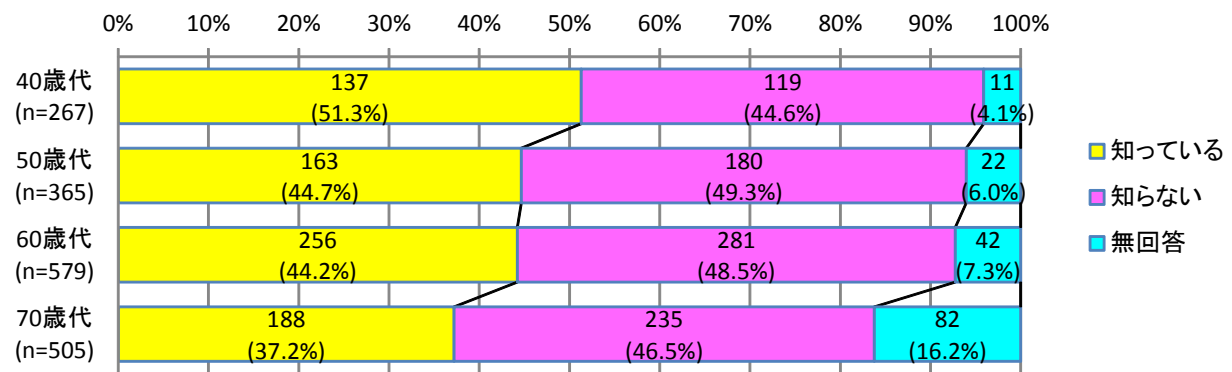
ウ 訪問リハビリテーション

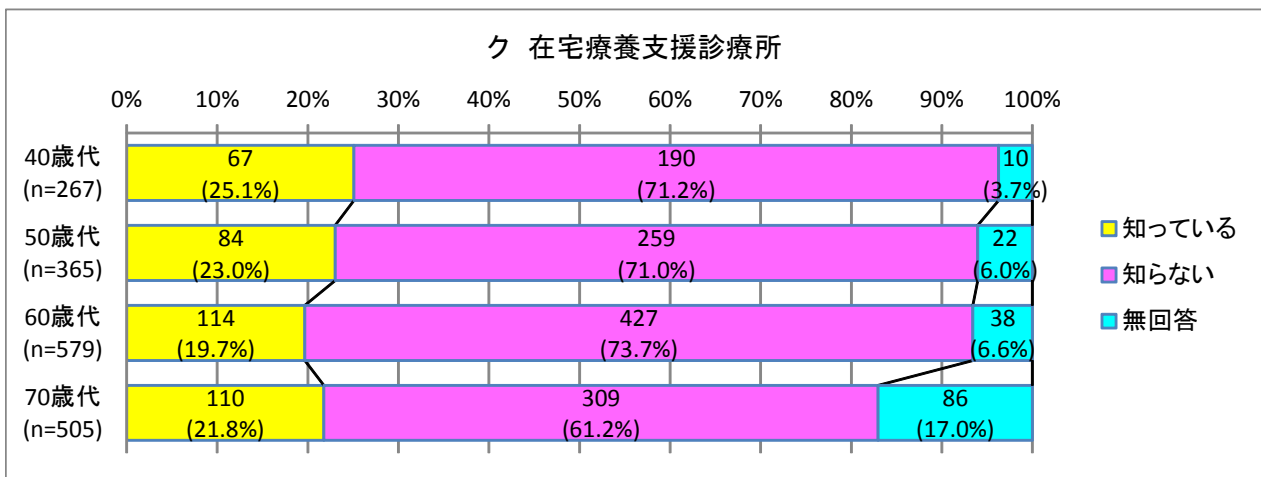
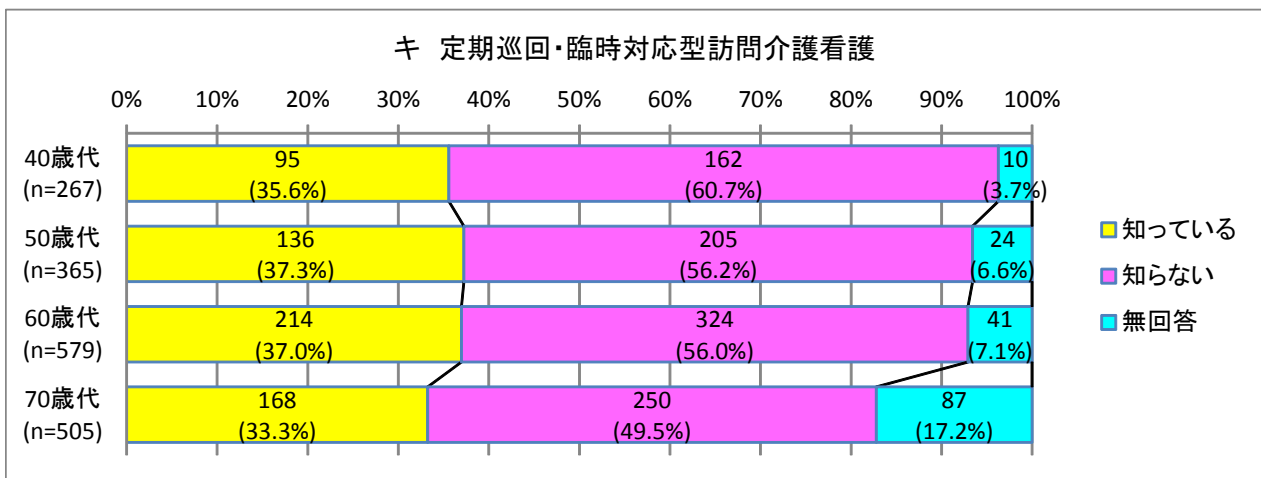
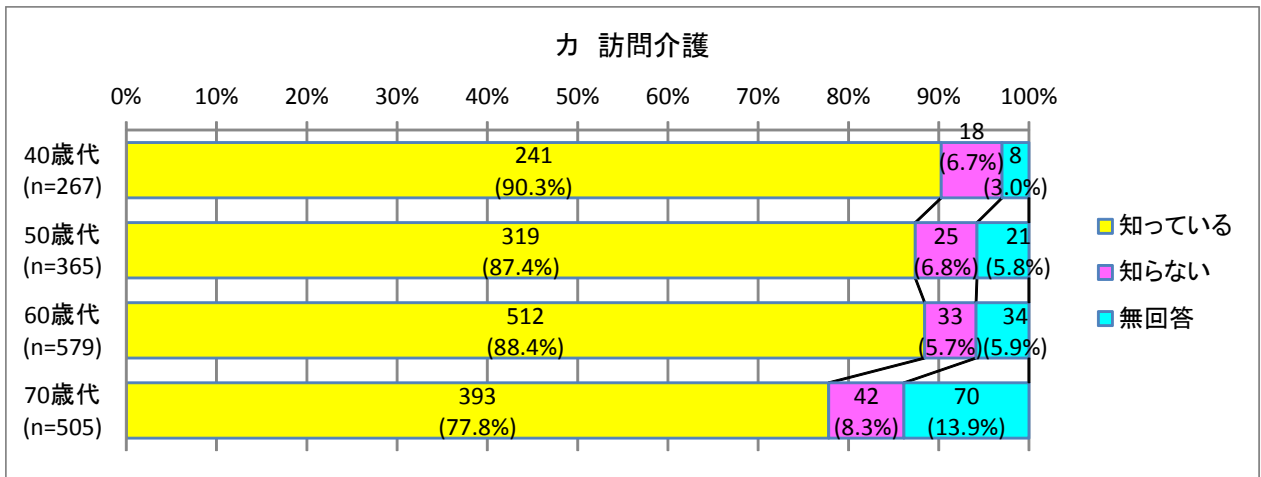


エ 訪問薬剤管理指導



オ 訪問歯科診療





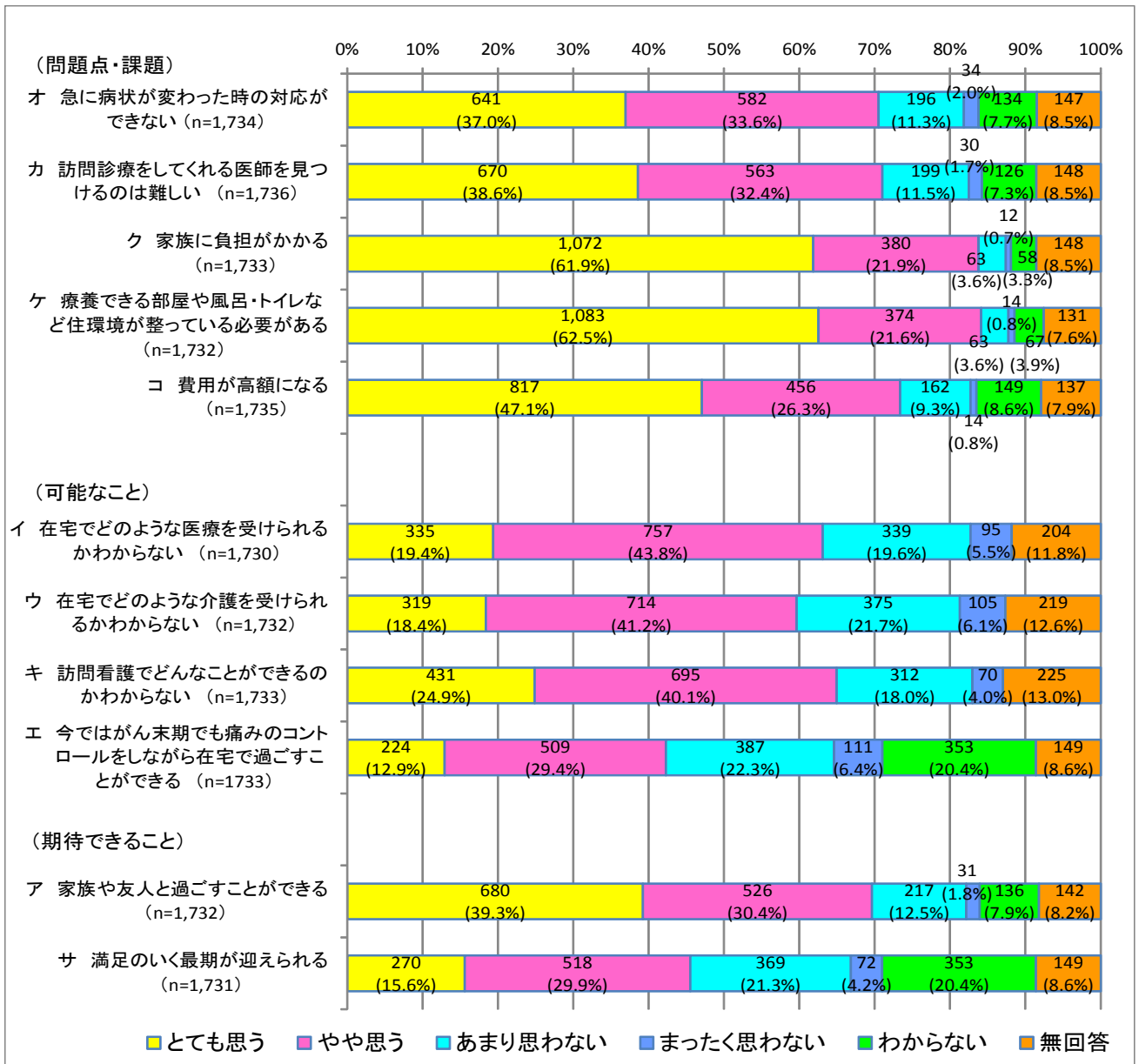
問 13 在宅医療・介護を受けることについてどのようなイメージをお持ちですか。
 アからサの各項目について、それぞれ該当する数字を1つずつ選んで○で囲んで
 ください。

在宅医療・介護を受けることについてのイメージは次のとおりとなっている。

『問題点・課題』に関する5項目は、「そう思う」（「とても思う」及び「やや思う」。以下同様）と回答した人がいずれも70%を超えており、特に「家族に負担がかかる」及び「住環境が整っている必要がある」は80%を超えている。

『可能なこと』に関する項目については、医療・介護・訪問看護について「どのようなサービスが受けられるかわからない」は「そう思う」が59.6%～65.0%、「がん末期でも痛みのコントロールをしながら在宅で過ごすことができる」は、「そう思う」が42.3%となっている。

一方、『期待できること』に関する項目については、「家族や友人と過ごすことができる」は「そう思う」が70%弱あったのに対し、「満足のいく最期を迎えられる」は50%を下回っている。



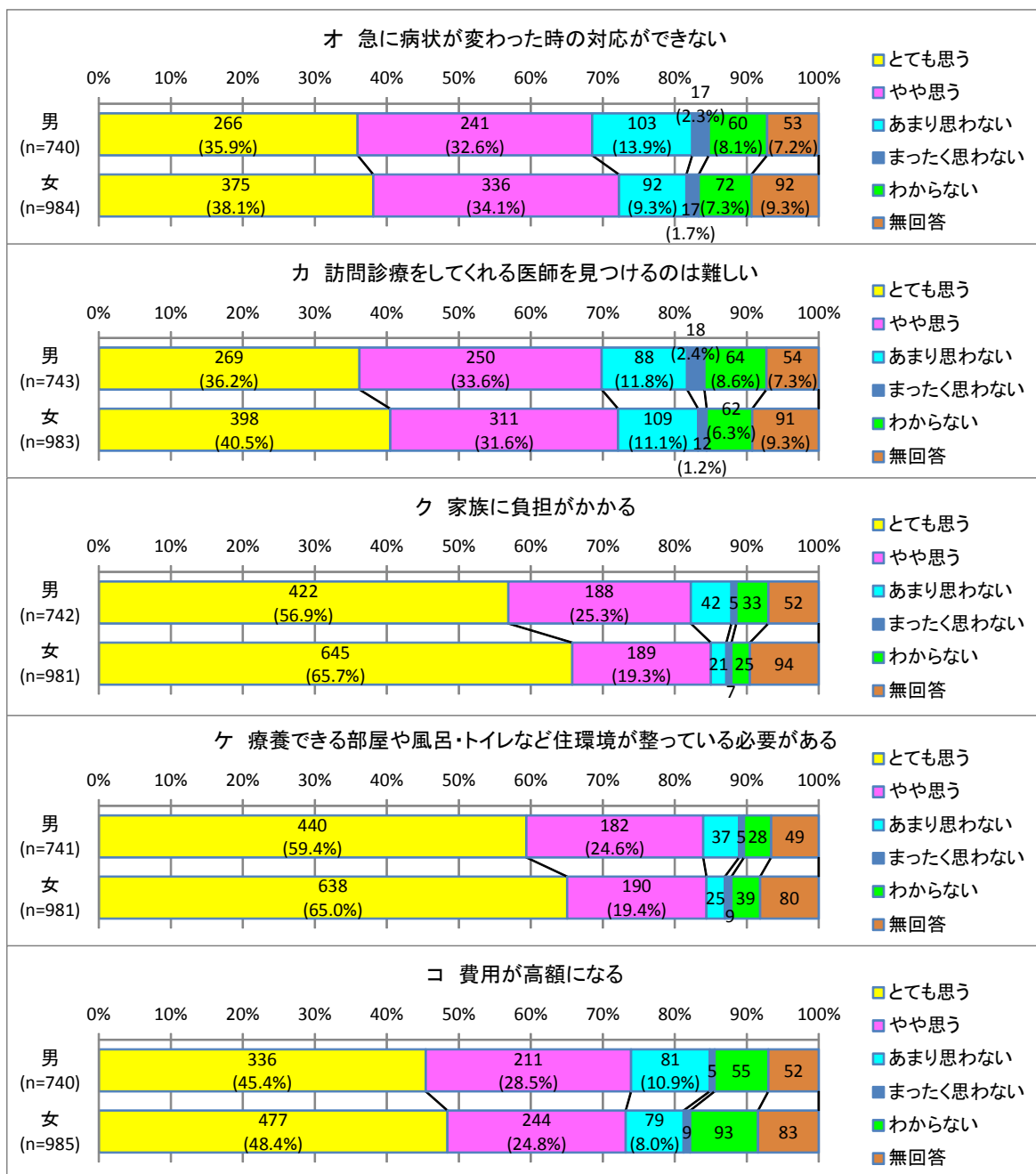
男女別に見ると次のとおりとなっている。

『問題点・課題』に関する5項目について、「そう思う」と回答した割合は、「コ 費用が高額になる」を除いて、女性の方が高くなっている。

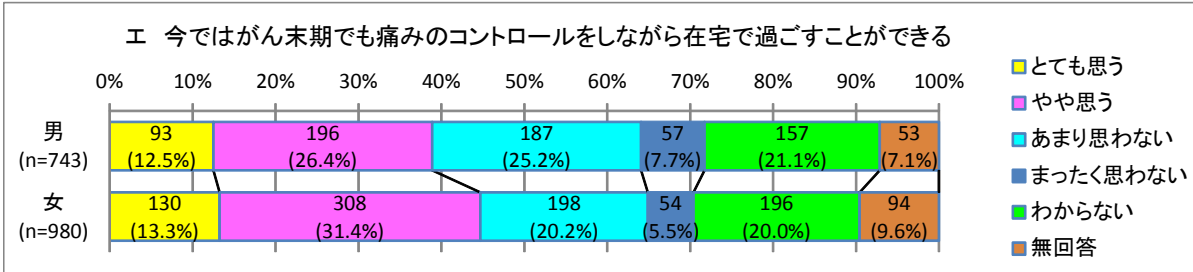
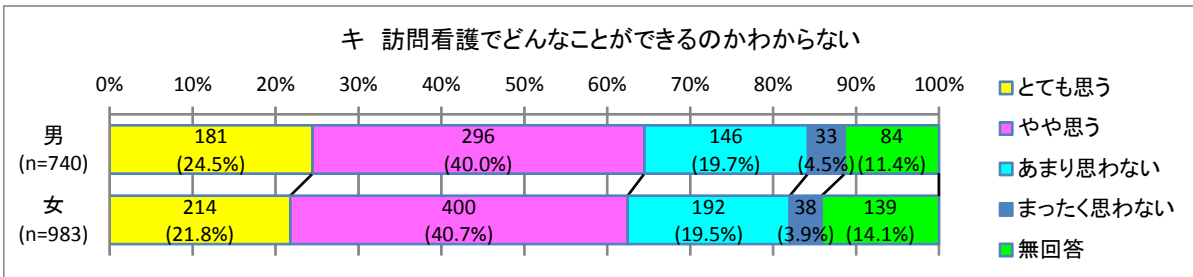
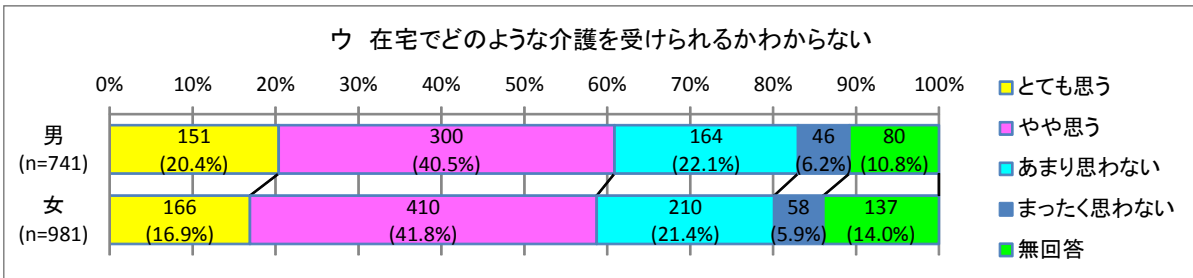
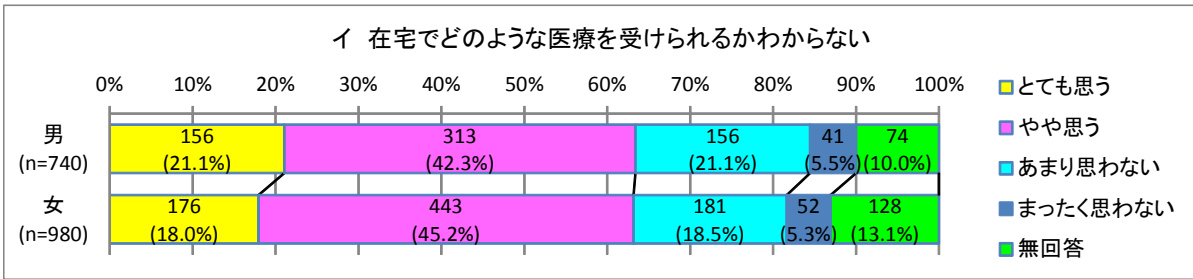
『可能なこと』に関する4項目については、医療・介護・訪問看護について「どのようなサービスが受けられるかわからない」は「そう思う」と回答した割合は男性の方が高くなっている。また、「がん末期でも痛みのコントロールをしながら在宅で過ごすことができる」については、「そう思う」と回答した割合は女性の方が高くなっている。

一方、『期待できること』に関する2項目について、「家族や友人と過ごすことができる」は、男女に大きな差がなかったのに対し、「満足のいく最期を迎えられる」は、男性の方が「そう思う」と回答した割合が高くなっている。

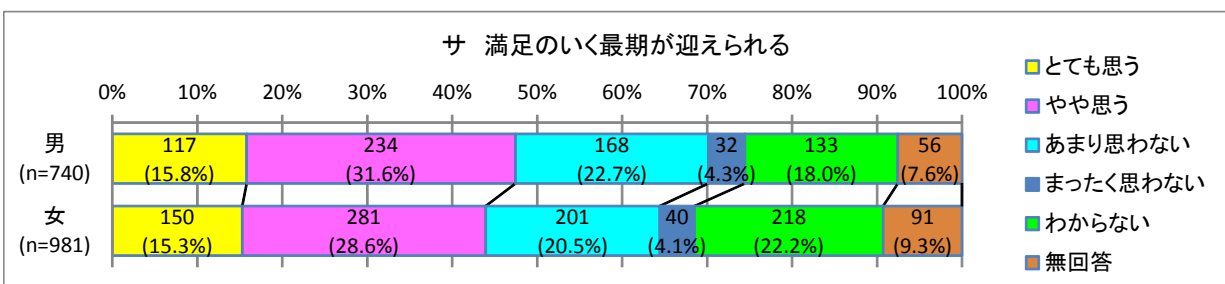
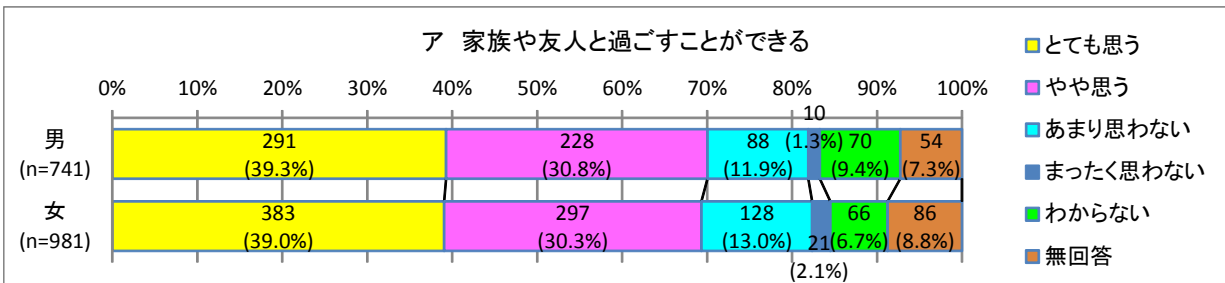
(問題点・課題)



(可能なこと)



(期待できること)



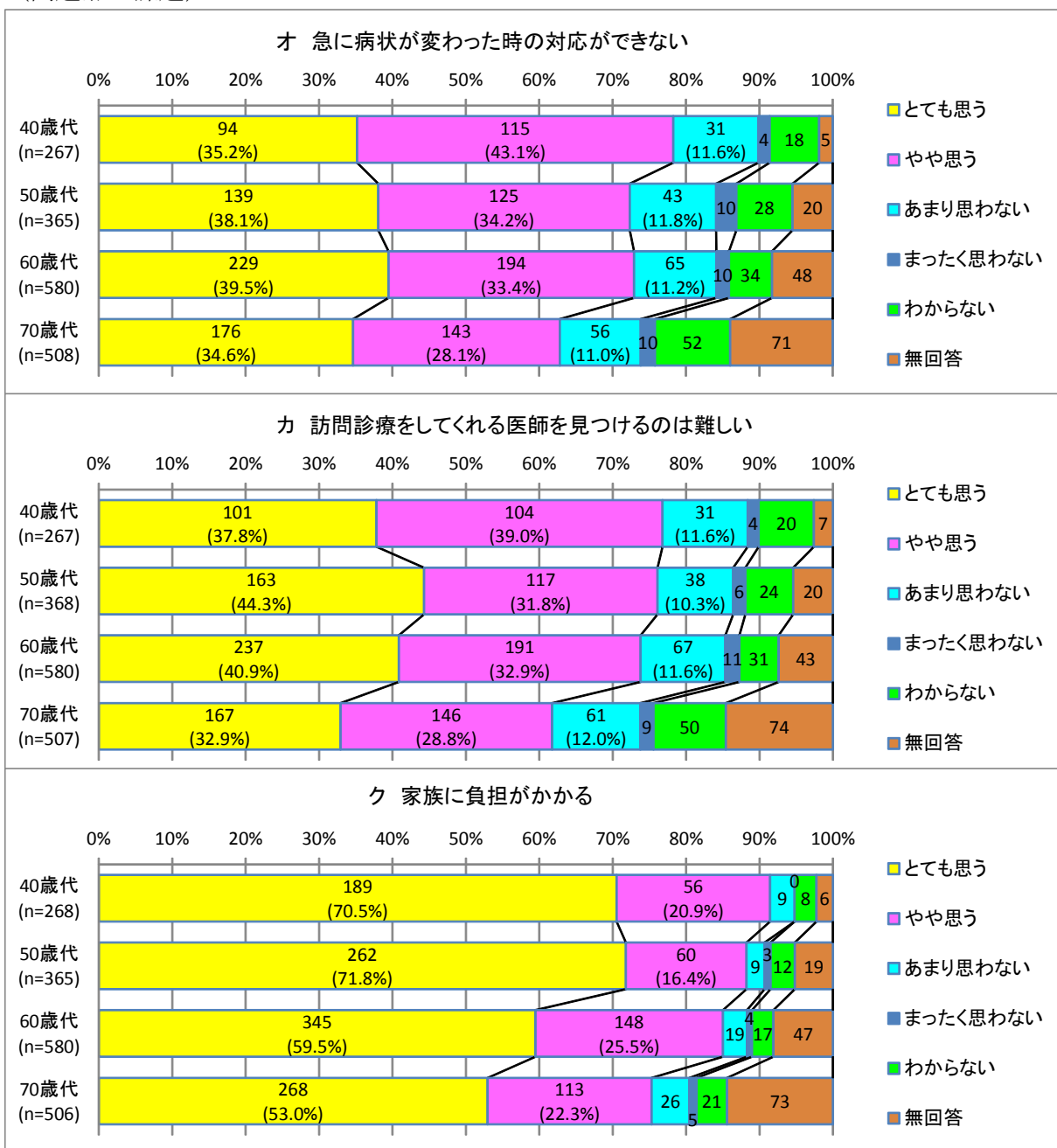
年代別に見ると次のとおりとなっている。

『問題点・課題』に関する5項目について、「そう思う」と回答した割合は、オの60歳代を除いて、年代が上がるほど低くなっている。

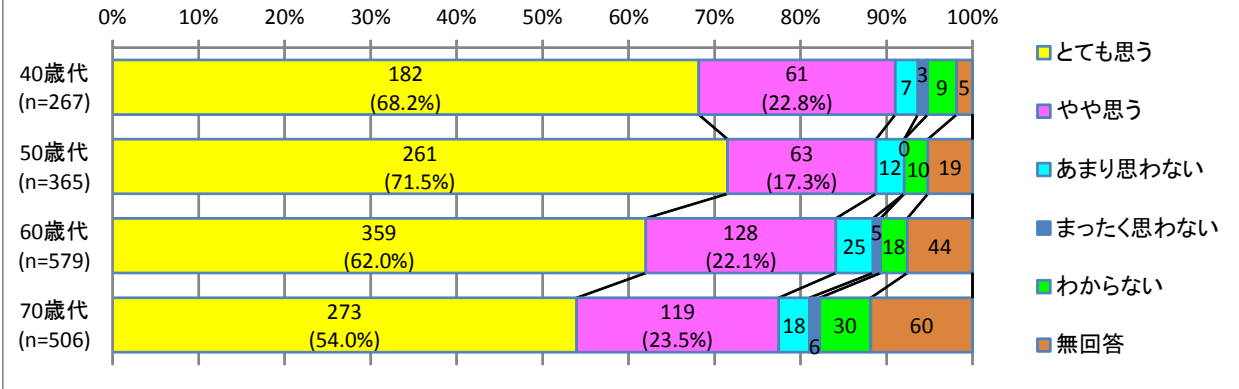
『可能なこと』に関する4項目については、医療・介護・訪問看護について「どのようなサービスが受けられるかわからない」は「そう思う」と回答した割合は、「キ」を除いて、年代が上がるほど低くなっている。また、「がん末期でも痛みのコントロールをしながら在宅で過ごすことができる」について「そう思う」と回答した割合も年代が上がるほど低くなっている。

さらに、『期待できること』に関する2項目についても、「そう思う」と回答した割合は、年代が上がるほど低くなっている。

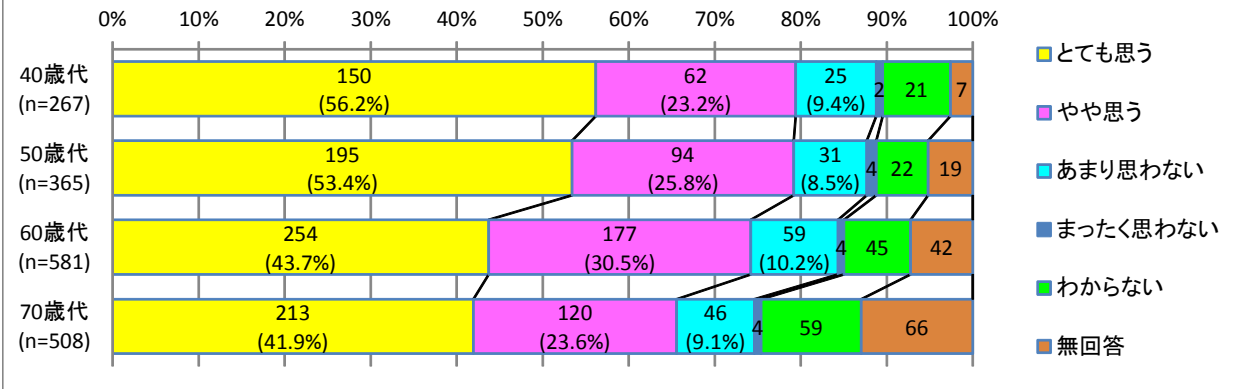
(問題点・課題)



ケ 療養できる部屋や風呂・トイレなど住環境が整っている必要がある

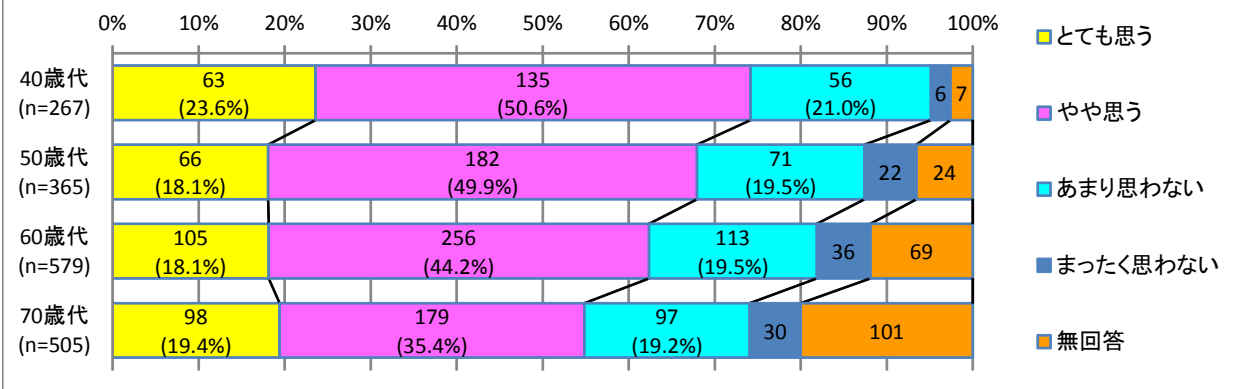


コ 費用が高額になる

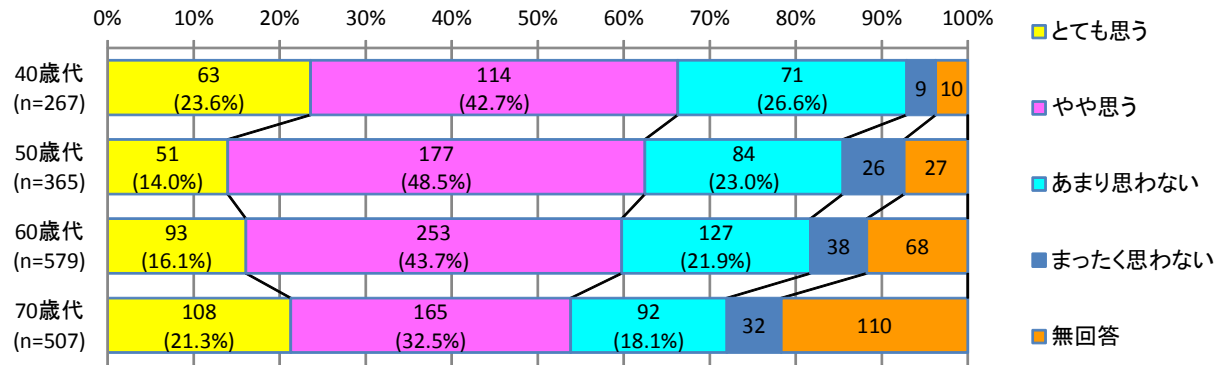


(可能なこと)

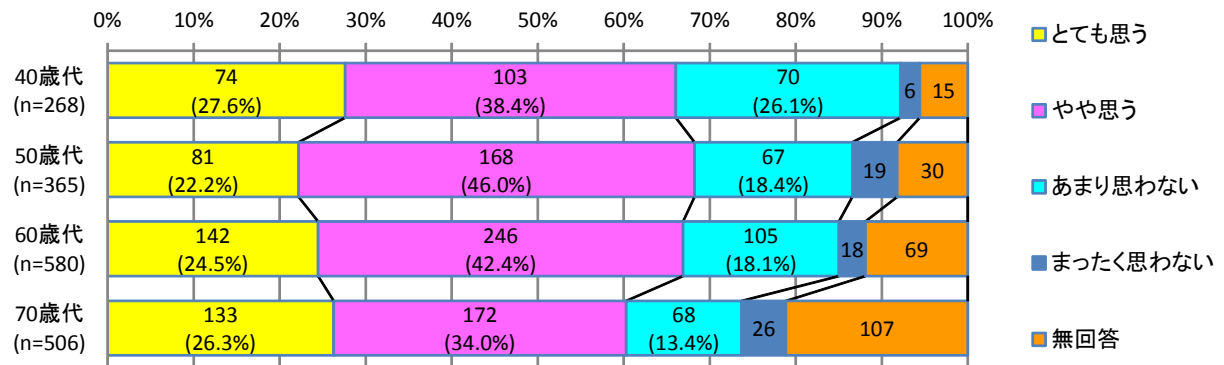
イ 在宅でどのような医療を受けられるかわからない



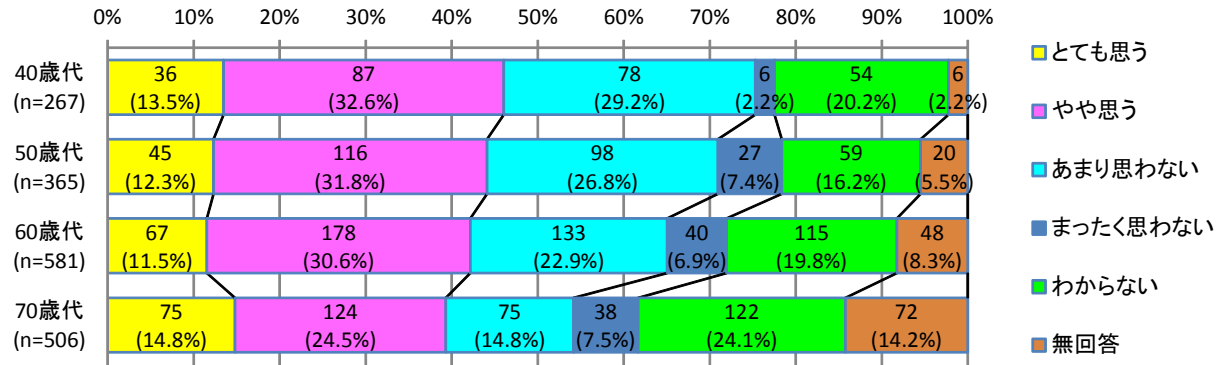
ウ 在宅でどのような介護を受けられるかわからない



キ 訪問看護でどんなことができるのかわからない



エ 今ではがん末期でも痛みのコントロールをしながら在宅で過ごすことができる



(期待できること)

